

平成 21 年度 研究紀要 第 59 集

- 調査研究部 **より好ましい生活を確認するために**
— 小中の接続をなめらかにするための有効な手立てを探る —
- 教育研修部 **思考力を高める学習指導のあり方**
— 「書く」・「話す」活動を通して —
- 情 報 部 **情報収集の場としての研究所HPの活用の方策を探る**
- 教育座談会 **次代を担う安房の子どもたちの豊かな成長を願って**

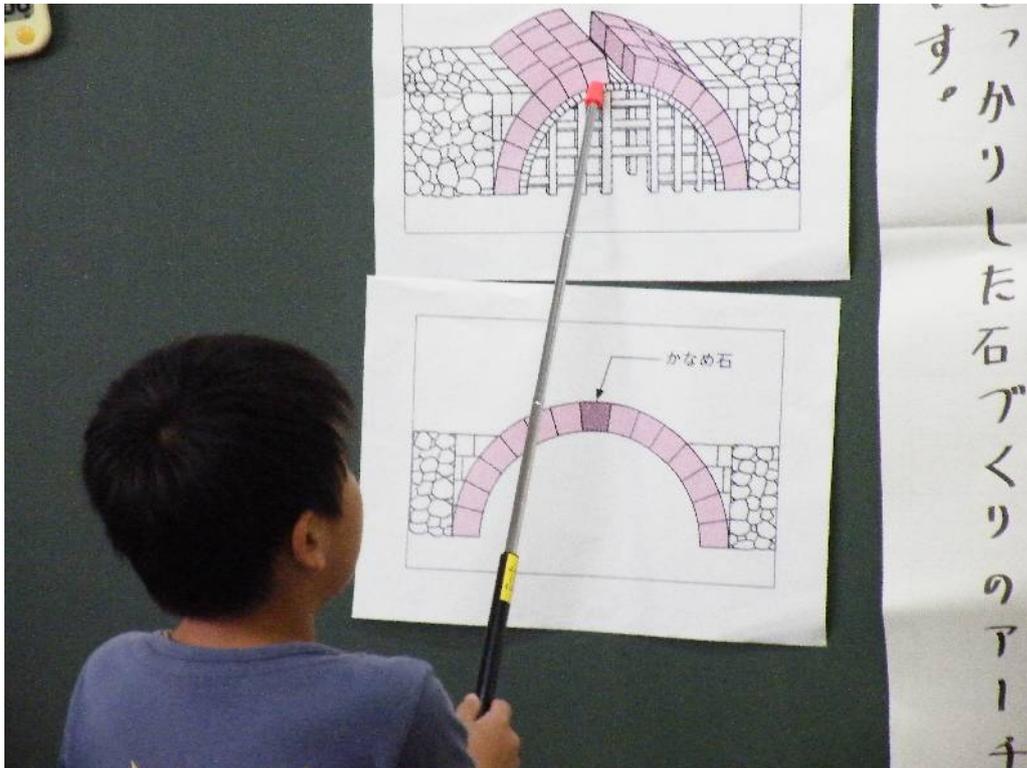


千葉県安房教育研究所

2010. 3

平成 21 年度 研究紀要 第 59 集

- 調査研究部 **より好ましい生活確立のために**
— 小中の接続をなめらかにするための有効な手立てを探る —
- 教育研修部 **思考力を高める学習指導のあり方**
— 「書く」・「話す」活動を通して —
- 情報部 **情報収集の場としての研究所HPの活用の方策を探る**
- 教育座談会 **次代を担う安房の子どもたちの豊かな成長を願って**



千葉県安房教育研究所

2010.3

調査研究部 提言

<小学校から中学校へのなめらかな接続を図るために>

○提言1ー子ども達へ

- ・学習や生活の変化をうまくのりこえよう

○提言2ー家庭へ

- ・子どもとのコミュニケーションを密にしよう

○提言3ー学校へ

- ・学習指導・人間関係づくりを充実させよう

教育研修部 提言

<児童生徒の思考力を高めるには>

○「追究する」場面で、理由や根拠をはっきりさせて書く活動の工夫を

- ・例：ノート指導 ワークシートの活用 学んだことを書く活動 など

○「磨き合う」場面で、友達の考えと関連させて、自分の考えを深める話し合い活動を

- ・例：話し合いのテーマと場面設定の工夫 多様な学習形態
接続語を意識した話し合い など

先生方をつなぐ

研究所のホームページを目指しております。

<http://www4.ocn.ne.jp/~awkyoiku/>

2009年度のあゆみ



日常の所員研修の様子



教育研修部



調査研究部



情報部

夏季宿泊研修会



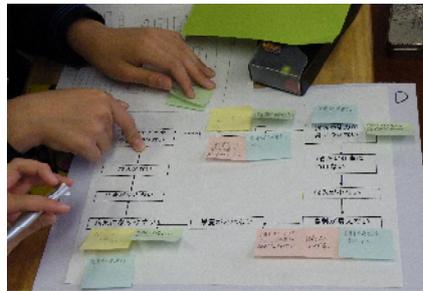
教研集会



県外研修



教育研修部実践授業



教育座談会



安房教育研究所発表会



はじめに

1955年に安房教育研究所が設立され、今年度55年目を迎えます。研究紀要も59集を刊行するに至りました。『安房教育』を築いてきた諸先輩方の重さを感じながら所員一同一生懸命頑張っています。今年度の所員数は30名とやや少ないですが、1年間かけて取り組んだ研究の報告を『研究紀要第59集』として刊行致します。

新学習指導要領が小学校は23年度から、中学校は24年度から実施されます。『生きる力』を育み『心豊かなたくましい児童生徒の育成』の基本的な考えは継続するとしています。いつの時代になっても変わらぬ教育の目標であり、教員の願いでもあると思います。しかしながら教育を取り巻く問題は山積しています。その願いを達成するために、研究所は安房の教育の現状と課題を分析し、その具体的な手立てや授業のあり方について研修してきました。今年度は昨年度の課題を引き継ぎ、継続したテーマで下記の取り組みをしてきました。

調査研究部

昨年度の研究から、安房の児童生徒は、「規範意識は高いが、意識と実際の行動との差が見られる」という傾向があり、特に小6から中1にかけて差が大きいことがあきらかになっています。今年度は、この調査結果の背景を明らかにするために「より望ましい生活を確立するために 一小中の接続をなめらかにするための有効な手立てを探る」というテーマを設定しました。児童生徒、教員の意識調査をもとに分析・考察をして、子どもたち、家庭、学校への提言をしています。

教育研修部

昨年度から引き続いて「思考力」について取り組んでいます。思考力を高めるには、表現力は思考過程を整理するために欠かせないものであると考えています。そこで、「書く」「話す」をキーワードとして小学校と中学校の授業を通して明らかにしようとなりました。ノート指導やワークシートの活用により、書くことにより自分の考えが明確になりより深く考えるようになりました。また話し合いの工夫として、ペアー、グループの中で話し合う場面を設定し、全体の話し合いの場に結びつけていく学習活動の実践を行い意欲的な話し合いができるようになってきました。思考力を高めるには、全教科で「書く」「話す」活動を計画的に行い、話し合い活動を通じた取り組みの大切さを述べています。

情報部

2人の所員で研究所の研究状況をHPで紹介すると共に、これまでの研究紀要の概要を閲覧できるようにし利用者の拡大に向けて努力しています。研究所が情報収集の場として活用していただけるよう方策を研究しています。

また、夏の講演会では玉川大学教授の山極隆先生から『今日の教育課題と教師の在り方』についてご講演をいただき、「教師の情熱を忘れることなく、何のために教師になったのかも一度自らに問いかけ、誇りと使命感を持って取り組んでもらいたい」との言葉に気持ちが引き締められました。教育座談会では、「時代を担う安房の子どもたちの豊かな成長を願って」と題して、安房地区で活躍されている方々から貴重なご意見をいただきました。

おわりに

本研究に際しましてご指導、ご支援を賜りました講師の先生方、千葉県教育庁南房総教育事務所、同安房分室、千葉県教職員組合安房支部、安房地区教育委員会連絡協議会、安房郡市小中校長会・教頭会等々、多くの関係機関の皆様にご心からお礼を申し上げます。

目 次

写真で見る 2009 年度のあゆみ	1
はじめに	千葉県安房教育研究所 所長 石井昭博 5
目 次	6
第一編《調査研究部》 より好ましい生活を確立するために	
— 小中の接続をなめらかにするための有効な手立てを探る —	9
第 1 章 本年度の調査研究	9
1 研究主題	9
2 主題設定について	9
3 研究のねらい	9
4 研究の内容と方法	9
5 研究経過	10
第 2 章 調査研究の分析と考察	11
1 子どもの実態	11
2 小学校教員と中学校教員の意識	14
3 子どもと教員の比較	20
4 追跡調査から	23
第 3 章 研究のまとめ	30
1 まとめ	30
2 小学校から中学校へのなめらかな接続を図るために【提言】	32
3 課題	32
《研究発表会における講師からの指導》	33
資料編	34
第二編《教育研修部》 思考力を高める学習指導のあり方	
— 「書く」「話す」活動を通して —	47
第 1 章 研究の方向性	47
1 研究主題	47
2 主題について	47
3 研究の目標	47
4 研究の仮説	47
5 「思考力」を高める上でのめざす子どもの姿	48
6 研究の経過	48
第 2 章 小学校の実践	49
1 単元名 第 4 学年 国語「アーチ橋の仕組み」	50
2 単元について	50

3	仮説とのかかわり	50
4	全体計画	51
5	本時の指導	53
6	児童の変容	54
7	考察	60
第3章	中学校の実践	61
1	単元名 第3学年 社会「国際社会での日本の役割」	61
2	単元について	61
3	仮説とのかかわり	62
4	全体計画	63
5	本時の指導	64
6	生徒の変容	65
7	考察	71
第4章	研究の成果と課題	72
1	成果	72
2	課題	72
	《研究発表会における講師からの指導》	73
第三編	《情報部》 情報収集の場としての研究所HPの活用の方策を探る	74
	活動の概要	74
1	主題	74
2	主題について	74
3	活動目標	74
4	活動内容	74
5	成果と課題	75
第四編	《教育座談会》 次代を担う安房の子どもたちの豊かな成長を願って	
	教育座談会記録	77
	平成21年度 安房教育研究所役員一覧表	96
	平成21年度 千葉県安房教育研究所所員一覧表	97
	千葉県安房教育研究所 研究テーマ一覧表	98
	あとがき	102